

前期計画からの主要な継続課題と計画での位置づけについて

●基本目標 1 関連

継続課題の状況	五次総での位置づけ
<p>駅北口土地区画整理事業の整備率について、100%を目標としていたが、第2回審議会で提出した施策指標シート作成時点で現状値が17.1%に留まっていた。</p>	<p>基本戦略①の和光市駅周辺の魅力の向上にて、駅北口土地区画整理事業を位置付け、引き続き、推進していく。目標像1のKPIとして駅北口土地区画整理事業の整備率の目標値を100%とし、計画期間での整備完了を目指す。</p>
<p>市民意識調査によると駅北口まちづくりの満足度がマイナスの値となっており、満足度を上げていくための取組が必要となっている。</p>	<p>基本戦略①として、和光市駅周辺の魅力の向上を位置付け、従来から進めてきた駅北口土地区画整理事業に加え、駅北口地区高度利用化推進事業を一体的に推進することを位置付けた。</p>
<p>和光北インター東部地区土地区画整理組合の設立に向けた検討中である。</p>	<p>基本戦略⑦の和光北インターチェンジ周辺の活性化の中で、和光北インター東部地区における土地区画整理事業を位置付け、推進していく。</p>
<p>市民意識調査によると道路環境の満足度がマイナスの値となっており、満足度を上げていくための取組が必要となっている。</p>	<p>目標像2として「安全かつ快適に移動できる」を単独で設け交通に特化した目標像を設けるとともに、基本戦略④として地域公共交通の充実を位置付け、民間交通事業者とともに設置する地域公共交通会議を通じた総合的な公共交通体系の改善や次世代モビリティやMaaSなどの新しい移動技術の検討を施策として盛り込んだ。</p>

●基本目標 2 関連

継続課題の状況	五次総での位置づけ
新型コロナウイルス感染症に伴い、学校における ICT 環境の改善の必要性が高まっている。	施策 4-1 において、ICT を活用した教育の充実を掲げるとともに、施策 4-3 にて教材や ICT 環境などの充実を強調することにより、今後推進する GIGA スクール（児童生徒 1 人 1 台コンピュータ等を実現する取組）などを含めた ICT 施策を推進していく。
学童クラブの待機児童については 0 人を目標としていたが、第 2 回審議会で提出した施策指標シート作成時点で 16 人となっており、待機児童の解消には至っておらず、放課後児童の居場所づくりの必要性が高まっている。	基本戦略⑤の子どもたちや子育て世代の支援のなかで、学童クラブとわこっこクラブの一体型運営による放課後の児童の居場所づくりを推進することを明確にした。
午王山遺跡が国史跡指定されたことに伴い、再整備の必要性が高まっている。	基本戦略⑦の和光北インターチェンジ周辺の活性化として、午王山遺跡の整備を位置付けた。

●基本目標 3 関連

継続課題の状況	五次総での位置づけ
保育園の待機児童については 0 人を目標としていたが、第 2 回審議会で提出した施策指標シート作成時点で 54 人となっており、待機児童の解消には至っていない。	基本戦略⑤として、子どもたちや子育て世代の支援を位置付け、引き続き、保育ニーズに対応した提供体制の基盤整備を進めるとともに、新たな取組として、保育の質の向上策として保育センターを設置する。
2020 年 1 月 1 日現在の 14,822 人であった老年人口が人口推計によると 2031 年 1 月 1 日現在で 15,954 人になり、1,000 人以上増加が見込まれる。	基本戦略⑥として、高齢化への対応を位置付け、これまでも本市が先駆的に取り組んできた介護予防事業やコミュニティケア会議などの地域包括ケアの取組を引き続き重点的に推進していく。

●基本目標 4 関連

継続課題の状況	五次総での位置づけ
<p>自治会加入率について 50%への増加（策定時 45.6%）を目標としていたが、第2回審議会で提出した施策指標シート作成時点で現状値が 40.9%に減少していた。</p>	<p>基本戦略⑧として地域コミュニティの再醸成を位置付け、従来からの自治会単位での地域コミュニティの醸成と並行し、学校を核としたコミュニティ・スクールや小学校区を基本単位とする地区社会福祉協議会の全市展開を通じ、地域コミュニティの再醸成を進めていく。</p>
<p>前期計画策定段階で、すでに老朽化が課題となっており、焼却施設の整備についての検討が必要という課題認識があった和光市清掃センターについて更新が未了である。</p>	<p>基本戦略③として環境に配慮した清掃センターの更新を位置付け、朝霞市と共同で広域処理施設を計画期間内に整備する。</p>

●基本方針関連

継続課題の状況	五次総での位置づけ
<p>広沢複合施設整備に伴い、市庁舎周辺エリアの賑わい創出の気運が高まっている。</p>	<p>基本戦略②として市庁舎周辺の賑わいの創出を位置付け、周辺施設である広沢複合施設やUR都市機構が進める西大和団地再生事業との連携を図りながら、賑わいを創出していく。</p>